

大正から昭和初期にかけての日本ではそれまでとは違う、モダンでおしゃれな絵や文学が流行し、乙女心を捉えました。日本的なものと西洋文化が溶け合った、夢と憧れの世界。大人でも子どもでもない、少女たちのために「これまでにない雑誌」が、落谷虹児を中心として創られます。——1922年(大正11)4月に創刊された『令女界』(宝文館)は当初から落谷虹児の少女像を前提としていました。表紙はもとより、彼の挿絵や小説までふんだんに盛り込まれたこの雑誌は、“令女型”の流行語まで生まれ、女学校の高学年から結婚前までの女性たちの、大切な夢の指標となりました。気品と爽やかなお色気を兼ね備えた「令女」に乙女たちは心をときめかせたのでした。本展では落谷虹児が『令女界』のために書き下ろした作品を手掛かりに、読者だった大正・昭和の乙女像を探ります。

乙女心をとらえる虹児のモダンな画風

～空前の出版ブームに支えられた人気少女雑誌「令女界」～



大正を迎えた日本は、空前の出版ブームを迎えていました。雑誌や新聞の購読層が細かく分けられ、女学生をターゲットにした女性誌も相次いで創刊されました。まだ写真が一般的ではなかった時代に、口絵や挿絵はファッションの大切な情報源でした。中でも、落谷虹児の描く新しい時代を捉えた少女像は人気を博しました。

◀「令女界」1925年(大正14)7月号 口絵

一世を風靡、人気画家に

～「令女界」編集部とタッグを組んで活躍～

落谷はパリから帰国すると、まっすぐ正面を見つめる、健康的で凛とした雰囲気的女性を描くようになります。そのモダンな女性像は、新しいモノを求める時代の流れにマッチし、当時の乙女たちの心をつかみます。

「令女界」1949年(昭和24)10月号 表紙▶



落谷虹児が描くパリモード

～「パリ流行画信」から見る1920年代トレンド～

落谷が『令女界』に発表した作の中でも、特に人気が高かったのが、パリの最新モードを紹介した口絵でした。《パリ流行通信》のコーナーではファッション雑誌の記者のようにその年の流行を語っている。落谷のファッションセンスの高さが見て取れます。

◀「令女界」1929年(昭和4)2月号 口絵

マドモアゼルの日常の暮らし

～日本に紹介されたパリの少女たち～



パリでの落谷の生活は、日中は雑誌の挿絵やサロンへの出品画の制作、夜はアカデミーでのクロッキーの習練に明け暮れる日々でした。そんな中で実際に会った普通のパリジェンヌの姿を《パリ画信》としてファッション雑誌のモデルのように描いています。

◀「令女界」1957年(昭和2)7月号 口絵

乙女に人気の文芸小説

～恋愛小説から自伝的絵物語まで～

1937年(昭和12)1月号から1年間にわたり連載され人気となった長篇自伝小説「乙女妻」。毎号8ページに各ページ1枚の挿絵が丁寧な筆致で描写され、落谷小説の代表作となりました。

気になる当時の芸能・スポーツネタ

～演劇から海外の映画まで～

女性の時代の先駆けとして宝塚歌劇団、邦画・洋画のスター達や活躍するスポーツ選手の素顔の紹介など写真と共に掲載しています。

世相を映す雑誌広告

～化粧品から百貨店の広告まで～

少女雑誌『令女界』の読者に向けた広告に注目します。当時の乙女たちは何に興味があったのでしょうか。美しさへの憧れから美容への関心やデパートが発信する商品広告等を通して、時代の鏡といわれる宣伝広告から当時の女性の流行を探ります。

落谷虹児記念館 (新潟県・新発田市)

- 【開館時間】 9:00～17:00(入館は16:30まで)
- 【休館日】 月曜※但し、祝日の場合休まず開館し翌火曜日に休館いたします。
年末年始12月29日～翌年1月3日
- 【交通機関】 ●お車でお越しの場合
日本海東北自動車道
新発田インターチェンジより約15分
- 電車でお越しの場合
JR白新線・羽越本線「新発田駅」下車
徒歩約15分
- 無料駐車場完備(約150台)
隣接する新発田市第3駐車場をご利用ください。
駐車場に入車の際はゲートで駐車券をお取りいただき、鑑賞後お帰りの際に記念館受付で無料処理を行います。
- 【所在地】 〒957-0053 新潟県新発田市中央町4-11-7
電話&FAX 0254-23-1013



落谷虹児記念館 全景